基本構想

基本構想目次

1　行橋市の目指す姿

2　施策体系

第1章 基本構想 行橋市の目指す姿

第1節 将来像

これからの 10 年間で起こるとされる変革は、近年の社会変動よりも更に大きな影響を市民生活にもたらすと考えられます。その変革の波をポジティブにとらえ、本市のまちづくりに効果的に活かすことにより、「安全」「安心」「快適さ」が充実したまちを目指していきます。この思いを『ここ(行橋市)っていいね』『心地いい』という言葉に込め、本市の「将来像」として以下のように定めます。

ここっちいいやん。
くらそう ゆくはし

第2節 将来像を支える4つの理念

(1) ゆとりあるまち

心のゆとりは、災害や犯罪等の危機や脅威にさらされることがなく、日々の生活で安全・安心が実感できることで生まれます。更に、豊かな住環境と利便性の高いまちで暮らし、充実した余暇を過ごすことにより、心のゆとりが広がるとともに、子どものすこやかな成長と学びを地域全体で支え、社会全体で育んでいこうとする機運が高まります。

そのような環境下で、子どもや若者が自ら学ぶ意欲と志を持ち、心豊かに、かつたくましく生き抜くことができるよう、すべての大人がサポートできることが重要です。

周囲の人を大切にし、心地よく暮らすことのできるまちとなり、自信を持って次世代にバトンをつなぐため、子どもが見晴らしのよい未来をひらける「ゆとりあるまち」を目指します。

基本方針と取組みイメージ	子どもが元気に育つ	子どもや保護者に対する支援サービスの充実、学校教育の充実、施設環境の適正管理
	心豊かに楽しく住まう	適正な土地利用、住みよい環境づくり、中心市街地・交流拠点の活性化や地域資源の活用
	安全・安心な生活を送る	行政及び関係機関との防災・減災体制の構築、市民の安全意識の醸成に係る活動

(2) 共生するまち

交流や対話を深めることで生まれる共感や共有の関係は、「一人ひとりは違う」という多様性への尊重を醸成し、孤立せずにつながるコミュニティを育みます。コミュニティの絆を支えに、一人ひとりが自立し望む暮らしを実現するには、住み慣れた場所で生活できる環境づくりも重要です。

そのため、今ある資源を最大限に有効活用し、豊かな自然と文化・歴史を活かしたまちづくりと、快適な暮らしを支えるインフラが備わった都市整備を進めていきます。

持続可能なまちとして、人と人、人と生き物、都市と水と緑、歴史・文化と最新技術など、あらゆるものが「共生するまち」を目指します。

基本方針と取組みイメージ	理解しあって支えあう	高齢者や障がい者等への福祉支援・生活支援、人権問題への啓発、外国籍市民の地域交流促進
	地域資源と共生し、活用する	都市整備の推進、施設・インフラの改修・維持管理、自然や文化など地域資源と調和したまちづくり

（3）活躍するまち

生きがいと希望を持ち続けるためには、社会とふれあいながら、誰かに必要とされる実感が持てることが重要です。農業や水産業、工業など市民を長年支えてきた産業の継承や強化に加え、新たな産業・仕事の創出、地域や志に根づく様々な活動の場づくりを支援することで、一人ひとりの能力や個性を活かし磨くことを奨励します。

更に、年齢や立場などに関わらず、あらゆる市民に学習やスポーツ等への参画を促し、すこやかな人生の礎づくりを支援します。

多彩な活動がしやすい・起こりやすい環境をつくることで、人々を応援する土台のある「活躍するまち」を目指します。

基本方針と取組みイメージ	魅力ある産業が生まれる	一次産業や二次産業など既存産業の強化、未来技術による新産業化や創業の支援
	一人ひとりが輝く	生涯学習や市民・地域活動の促進などによる生きがいづくり支援、地域結束力の強化

（4）進化するまち

新型コロナウイルス感染症の流行をはじめ、予測や想定が難しい様々な問題が人々に不安をもたらすなか、社会変化に伴う課題に対応する力だけでなく、ありたい姿を自ら描き出す力や、そこに向かってチャレンジする前向きな推進力が求められています。

そのためには、一人ひとりが持つ能力や個性をオープンにし、シェア（共有）するなど、風通しのよい風土や関係性づくりが重要となります。人や情報、テクノロジーなどの新たな動きを積極的に受け入れ、今と未来を見据えた賢明な手法を用いて、活発なまちづくりにつなげていきます。

最適な意思決定と効率的な資源配分を行いながら、先進的な施策を先導的に講じ、新しい扉をひらく「進化するまち」を目指します。

基本方針と取組みイメージ	行橋版スマート＆コンパクトを実現する	サービスデジタル化やモデル事業活用、施設効率化等による効果的な行財政運営
	京築地域を先導する	産業・施策の高付加価値化や戦略的情報発信、褒めあう文化の醸成

第3節
将来像の実現に向けた指標について

本市の将来像「ここっちいいやん。くらそう　ゆくはし」の達成状況を検証するために、『住み心地がよいと感じている市民の増加』、『行橋市への愛着を感じている市民の増加』、『行橋市に住み続けたいと感じている市民の増加』を指標として設定します。

令和 3(2021)年に実施した市民アンケート調査における「行橋市の住みやすさ」についてみると、「住みよい」と「どちらかというと住みよい」を合わせた『住みよい』と回答した人が 76.4%となっています。しかし、20～40 歳代ではその実感は少なく、校区によっても「どちらかといえば住みにくい」の割合が比較的高いなど、地域差が生じています。また、居住年数でみると、5 年以上～10 年未満は『住みにくい』割合が比較的高くなっています。行橋市への愛着については、「感じている」と「やや感じている」を合わせた『愛着が高い』と回答した人が 74.0%となっていますが、30 歳代は「あまり感じていない」が比較的多くなっています。また、居住年数が長いほど「感じている」割合が高くなっています。

このように、全体的にはその指標数値が高くても、特定の世代や地域によってはその数値とは比例していません。満足や不満に感じる理由など、選択式の回答では表すことのできない内容については対面インタビューにて聴取するなど、潜在的な意識を把握しながら改善を行い、若い市民や居住年数の短い市民にも住み心地のよさや愛着を感じてもらえるよう、底上げを図っていく必要があります。

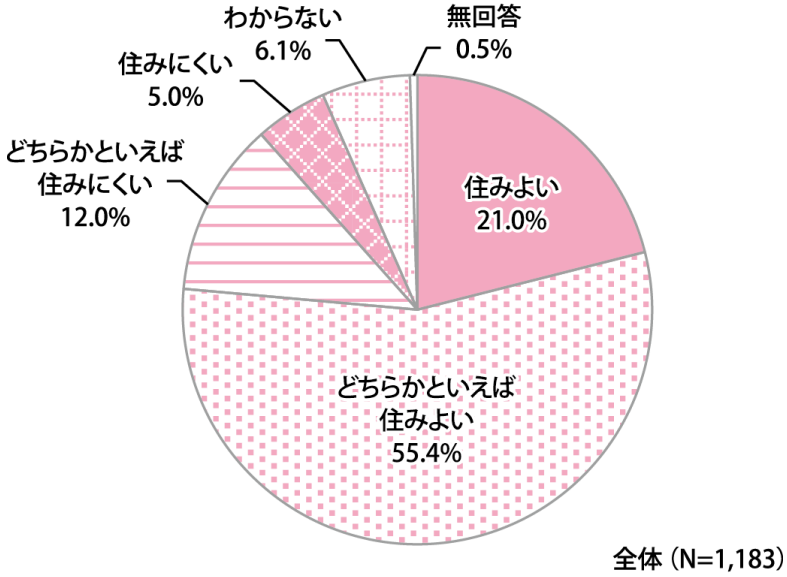
効果検証方法としては、従来の紙面アンケートに加え、市民と気軽にコミュニケーションを取れるよう、SNS※や Web ツールなど活用した定量調査を行うとともに、施策によっては特定のターゲット層にインタビュー調査で定性的に計測するなど、本質的な課題を把握し施策に反映できる手法を検討し、実施していきます。

定量調査　市民の実態や意識について、選択式回答による指標などにて、統計的数字を把握していきます。

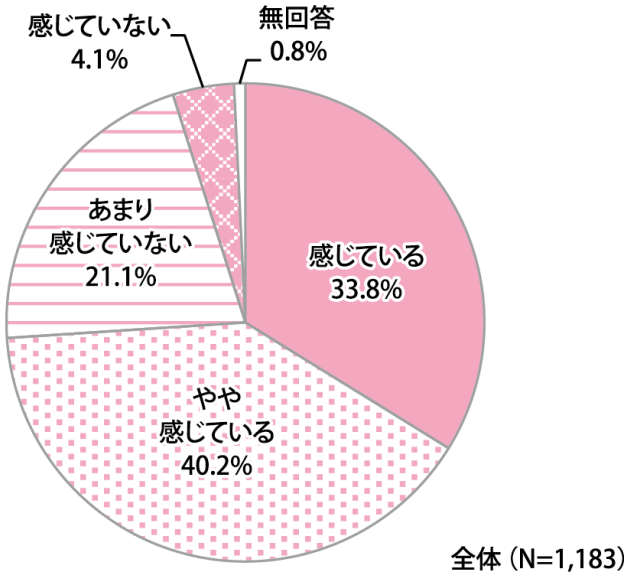
定性調査　満足や不満に感じる理由など、選択式の回答では表すことのできない内容を対面インタビュー等にて聴取し、潜在的な意識を把握していきます。

指標名	現状値	目指す方向
住み心地がよいと感じている市民の増加	76.4%	⇧
行橋市への愛着を感じている市民の増加	74.0%	⇧
住み続けたいと感じている市民の増加	66.7%	⇧

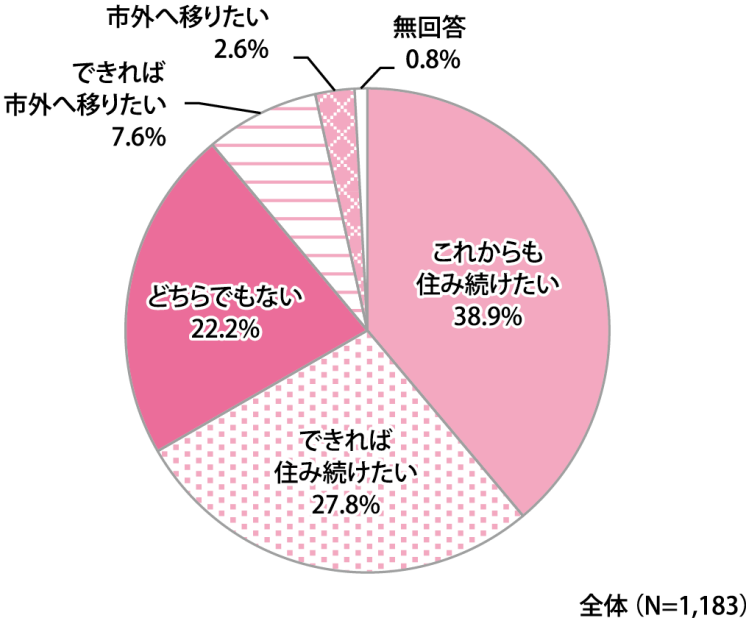
■行橋市の住みよさ



■行橋市への愛着



■行橋市に住み続けたい



施策体系

第1節 施策体系図

将来像「ここっちいいやん。くらそう ゆくはし」

基本理念

将来像を支える理念として、施策方針を描く。

ゆとりあるまち ／ 共生するまち ／ 活躍するまち

基本方針

基本理念に沿い、施策・事業を位置付ける。

施策項目

基本方針	(1) 子どもが元気に育つ		(2) 心豊かに楽しく住まう			(3) 安全・安心な生活を送る		(4) 理解しあって支えあう			(5) 地域資源と共生し、活用する				(6) 魅力ある産業が生まれる		(7) 一人ひとりが輝く	
施策項目	①安心できる子育て環境と学校教育の充実	②子どもの自立心・創造性の育成支援	③集約型都市づくりと選ばれる住環境の形成	④歩いて楽しむまちなみの形成	⑤憩い・レジャー・観光の振興	⑥くらしの安全性の向上	⑦防犯・安全対策意識の醸成・情報共有	⑧地域共生社会の実現	⑨自分らしく生活できるしくみの構築	⑩多様性を認める心の育成	⑪持続可能な都市インフラ整備	⑫潤いのある公共空間をデザイン	⑬水・緑・生き物の保全	⑭文化・芸術の次世代への継承	⑮既存産業の次世代への継承	⑯新たな産業の創出	⑰誰もが活躍できる機会の創出	⑱誰にでも開かれた学びの場づくり
(8) 行橋版スマート&コンパクトを実現する ⑲デジタルテクノロジー・データの横断的な活用と整備	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●			●	●	●	●
(8) 行橋版スマート&コンパクトを実現する ⑳連携による効果的な施策展開と行政運営	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
(9) 京築地域を先導する ㉑新たな魅力・付加価値の創造	●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
(9) 京築地域を先導する ㉒PR・広報の強化	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
(9) 京築地域を先導する ㉓褒めあう文化の醸成	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●		●	●	●

進化するまち

第2節
第6次行橋市総合計画　全体像